



季節を知ったら  
暮らしが楽しくなった

〔第三九〇号〕

啓蟄 けいちつ

三月六日

## 色の残るお香

二十四節気の啓蟄<sup>けいちつ</sup>。地中の虫たちが動き出し、地上に初めて出る頃とされます。歳時記には、「虫出しの雷<sup>らい</sup>」という季節のことばがあります。立春以後に聞く初めての雷のことで、大陸から南下する寒冷前線が通る時に鳴り、ひととき大きな音とか。「初雷」「春雷」ともいいますが、やはり「虫出しの雷」には虫が這い出るのを促すようで、天と地の繋がりを表す言葉だと思います。

小さな生きものが動き出すと、春という季節を実感します。そぞろ歩きもそろそろしたくなる頃。ぶらりとおかげ横丁をめぐる、いい香りに惹かれて香りの店「くつろぎや」へ入りました。

くつろぎやの店頭では、ちょうど、「日輪香<sup>にちりんこう</sup> 五十鈴川<sup>いすずがわ</sup>みず」というお香が焚かれていました。内宮前を下る清流、五十鈴川の清らかな香りを元に作られたお香です。しかもこの日輪香は、香りだけでなく、色も楽しめるのが特徴といえます。

色も楽しめるお香、興味深く日輪香が焚かれるのを見ていました。すると長さ七センチほどのお香は、灰をこぼすことはほとんどなく、そのままの形を保ち、美しい青色に変わるのに驚きました。白い灰ではなく、青色をしているのです。これは、白檀<sup>びやくたん</sup>など天然香料のベースに墨の粉を混ぜた独特の作り方で出来たオリジナル商品で、ほかにも、緑色になる「神宮林<sup>かみやうりん</sup> 杜<sup>もり</sup>の気配」、黄色の「神宮林<sup>かみやうりん</sup> とさわまんさく」と、色が異なるお香も魅力です。お香一本およそ十五分、煙が少ないのも部屋で焚くにはありがたいです。「煙は雑味<sup>ざつみ</sup>になるので、煙が少ないとより香料がダイレクトに香るので、いい香りになります」と幸田店長が教えてくれました。

伊勢の地にお香を伝えたのは、都から赴く斎王ではないかといわれています。平安の昔は、お香の灰は白いのが当たり前。斎王<sup>さいおう</sup>さんも驚くであろう、色も楽しめるお香です。

文 千種清美



# おかげの里便り

## おかげ横丁

### ○『阿部夫美子 和紙夢現展』

伊勢の地で独自の美の世界を創造し続ける和紙人形作家・阿部夫美子さん。  
今までに作り上げてきた作品から、約40体の和紙人形を展示いたします。  
和紙人形が放つ、気高さ、優美さ、力強さ。また、日本人としての感性に従って、生み出された色の取り合わせは、まるで夢か幻を見るような神話の美の世界です。  
さまざまな和紙人形の世界をお楽しみください。

と き／3月18日(土)～4月16日(日) 10:00～17:00

ところ／伊勢路名産味の館2階「大黒ホール」 入場無料

### ○『五十鈴川桜まつり』

春になると、山の神様が桜の木に宿り花を咲かせる・・・  
そう考えた昔の人々は、「花見」という宴を開いて神様とともに喜び豊作をお祈りしました。  
日本人の習いと楽しみを受け継いだ桜まつり。  
五十鈴川の桜と一緒に、うらかな春のひとつときをお過ごし下さい。

と き／3月30日(木)～4月5日(水) 10:00～17:00

ところ／五十鈴川河川敷周辺 ※内容が一部変更になる場合がございます。

お問い合わせ／おかげ横丁総合案内「おみやげや」電話0596-23-8838

## 五十鈴塾

### ○『蓄音機で聞く「音の歴史」』

19世紀にレコードと蓄音機が発明されると、人々は音楽や伝統芸能などを自宅で楽しむことができるようになりました。  
戦前期には、政治家による演説やスポーツの実況も録音され、レコードは多様な使われ方をしていました。  
今回の講座では蓄音機でレコードを再生しながら近代における「音の歴史」を解説していただきます。

と き／3月23日(木) 13:30～15:00

講 師／長谷川 怜 (皇學館大学文学部国史学科助教)

参加費／一般 1,400円 会員 900円

場 所／五十鈴塾右王舎

講座についてのお問い合わせ・お申込み／電話0596-20-8251

## 五十鈴茶屋

### ○『五十鈴茶屋節気菓子』

さわらびじょうよ  
早蕨薯蕷 早蕨は、万葉集に「萌え出づる春になりけるかも」と季節の便りにも詠まれています。  
よもぎ入りの薯蕷(じょうよ)生地でこし餡を包み、春の色そのままに淡い緑で染めました。

さほひめ  
佐保姫 奈良の都から見て春を指す東方に位置する佐保山には、佐保姫という春の女神が宿っていました。  
つぶ餡を雪平と羊羹を重ねた生地で包み、姫君の衣に見立てました。

はるがすみ  
春霞 山々が霞む春の景色はどこか絵画を思わせませす。  
羊羹と浮島でその一面をかたどり、陽炎もかすかに立ち昇る春霞の景色に似せました。